

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

川南町長 宮崎 吉敏

市町村名 (市町村コード)	川南町 (454052)
地域名 (地域内農業集落名)	平下地区 ( 平下、東平下、鍛冶ノ別府、夜明原 )
協議の結果を取りまとめた年月日	令和8年2月12日 (第2回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。  
 注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

本地区は、本町の北側に位置し、認定農業者や農業生産法人を中心にブロッコリー、ズッキーニ、キャベツ等の露地野菜の栽培が盛んな畑地帯である。畜産も盛んで、繁殖牛、肥育牛、養鶏ブロイラー、養豚預託農場がエリア内に混在している。

農業生産法人に農地の集約が進んでいる地域であるが、担い手不足により遊休農地も見受けられることから、耕作放棄地が増加しないよう担い手への集約を進め、農地を利用していくことが喫緊の課題である。

農業者:36人

主な作物:ブロッコリー、ズッキーニ、キャベツ、飼料作物、しそ、白菜、大麦若葉、山菜萵

(2) 地域における農業の将来の在り方

認定農業者や農業生産法人を中心に露地野菜の栽培、畜産業の維持・発展に取り組むとともに、担い手への農地集積・集約化を進め、農作業の効率化を図る。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	59.6 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	56.6 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	2.0 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
農地中間管理機構を活用して、担い手への農地集積を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
担い手の経営意向を踏まえ、段階的に集約化を進める。
(3)基盤整備事業への取組方針
機械の大型化に対応するための農道整備、作業効率化のための畦畔除去等についても、各種補助金制度を利用して取り組めないか検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
認定農業者、農業後継者、農業生産法人を中心に持続的な農地利用につなげ、産地の維持や農業者育成に取り組んでいく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
農作業委託については、現在のところ考えていない。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input checked="" type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ①アナグマ、シカ、イノシシ等の鳥獣被害対策に関係機関と共に取り組む。
- ②牛糞を使った有機肥料による飼料作物の栽培に継続して取り組む。
- ③スマート機器を使った牛の分娩監視を推進する。
- ⑤ぶどう、梨の果樹類は高品質なものを生産しているので、今後も品質の維持・向上に向けて取り組む。
- ⑩農地の有効利用につながる山茱萸の植栽に取り組む。